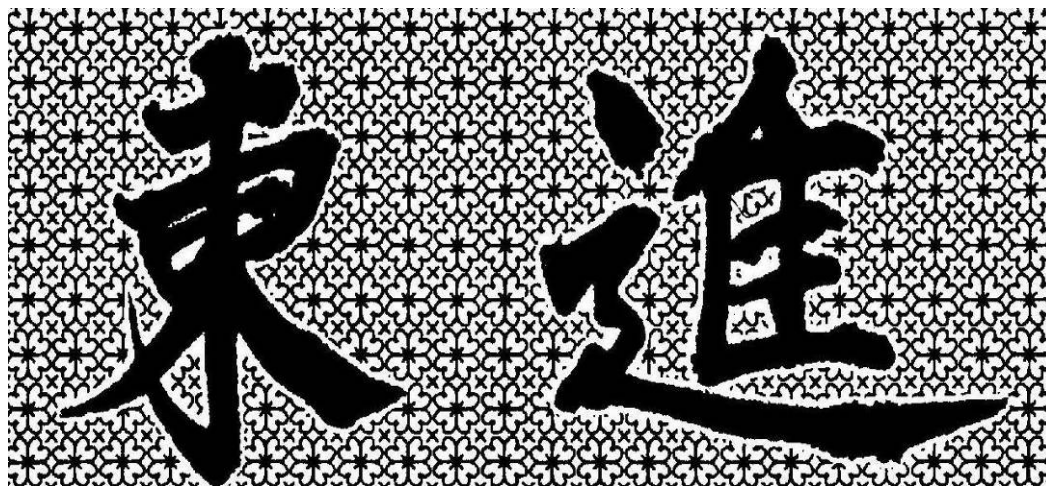


第45号

平成25年
5月1日

題字

植木 満
初代東進会会長

**発行所**

土浦一高東進会

〔茨城県立土浦一高
進修同窓会東京支部〕

発行人

東進会会長 大野 金一



提供 土浦市市長公室広報広聴課

■ 小型空中ロボットによせる思い
伊東 明彦 (平成5年卒)

■ 進修同窓会の動き
大野 金一 (東進会会長)

■ 同窓会考
柏瀬 孝子 (昭和57年卒)

■ 半了のささやき⑮ 初期化
高山寺 半了 (昭和41年卒)

■ 平成25年度大学進学状況
大野 金一 (東進会会長)

■ 平成25年度総会・懇親会ご案内
とき 6月9日(日) 12時00分から
ところ 学士会館
詳細は、8ページをご覧ください。

小型空中ロボットによせる思い

伊東 明彦 (平成 5 年卒)

この度は、東進会の機関誌である「東進」に原稿を書かせて頂く機会を頂き、有難うございました。この機会を利用して、3月24日の日本経済新聞に広い紙面を割いて紹介された「小型空中ロボット」をご紹介させて頂きます。

私は宇宙技術開発株式会社という会社に勤めており、人工衛星から地球を観測するリモートセンシングを利用した仕事を担当しています。リモートセンシングの利用分野は、地図作成、環境把握、災害把握など多岐にわたり、私も多くの研究開発や利用検討に関わる仕事を行ってきました。このような中で、水稻の収量や被害状況を把握する農業分野の仕事にも携わりました。水稻の収量や被害状況を把握するためには、水稻の特定の生育時期に、リモートセンシングでデータを取得する必要がありますが、地表面が雲に覆われる等、データが取得できないケースも生じます。そこで、雲に覆われている圃場は、地上で代わりのセンサを利用してデータを取得することを試みていました。地上での観測は、航空機や農薬散布用の無人ヘリに人工衛星と同じ太陽光の反射を計測するセンサを搭載し、データ取得する方法を検討していましたが、機体の費用が高価であることや、機体の操作が難しいことなどから、普及が難しいことが分かってきました。そこで、他の無人航空機を利用した方法を探

していたところ、複数のロータ (回転翼) を用いて、その回転翼のスピードをコントロールすることで飛行・制御する無人航空機があることを知りました。但し、日本で普及していたマルチロータ型の無人航空機の多くは海外製であり、私のように特殊なセンサを搭載し、データを撮影したいといった要望には応えるのが難しいことや、海外製の機体は価格が高いといった課題があり、あきらめかけていました。

そのような中、インターネットで無人航空機の情報を検索していたところ、千葉大学の野波健蔵教授が開発しているマルチロータ型の無人航空機があることを知りました。私は直ぐに、野波教授にアポイントを取り、訪問させて頂きました。野波教授と幾度か情報交換させて頂く中で、野波教授の研究成果の完成度が高く、実利用まで比較的短い期間で達成できること、また普及した時の社会的な波及効果が高いと確信するようになりました。

この頃、2011年3月11日に東日本大震災が発生しましたが、日本のロボットは、震災把握や原発施設の調査に利用されず、海外のロボットが活躍していました。日本のロボット技術は、世界の最先端と違っていましたが、社会インフラとして利用されないロボットばかりが開発されてきたのではないかと目を疑いました。このような背景も重なり、千葉大学のマルチロータ型

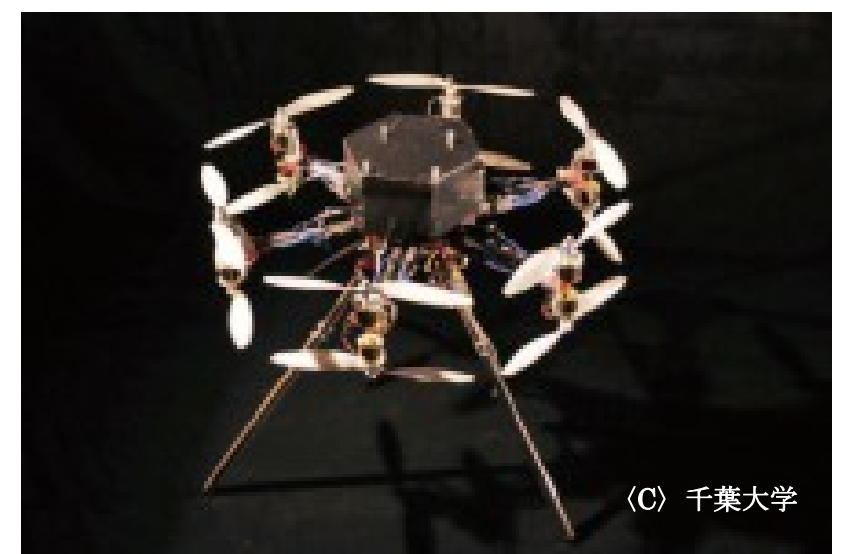
の無人航空機を社会インフラとして利用されるものにしていきたいといった思いは更に募っていきました。そこで、野波教授と意見交換を進める中で、マルチロータ型の無人航空機を事業化させる必要があること、またその事業化を促進させていくためには、開発メーカーとユーザから構成されるコンソーシアムを構成することが必要であるといった考えに至りました。それからは、コンソーシアムの構想を練ったり、参画する企業の勧誘などが始まりました。千葉大学が開発している無人航空機は、ミニサーベイヤーと名付けられ、コンソーシアムはミニサーベイヤーコンソーシアムという名称に決まりました。

ここで千葉大学のミニサーベイヤーを紹介させて頂くと、標準的な機体である Mini Surveyor-06 は、回転翼が 6 枚、全長が 80 cm、機体の重量は 1.7 kg、電源はリチウムポリマーバッテリー、飛行時間は約 15 分、搭載重量は 1.1 kg の仕様とな



〈C〉 千葉大学

図 1



〈C〉 千葉大学

図 2

っています (図 1 を参照)。Mini Surveyor-06 以外では、回転翼が 12 枚の機体 (図 2) や、搭載重量が 5 kg や 10 kg の機体があります。利用用途によって、センサ等の重量も異なることから、機体のラインナップも複数必要だと考えています。

機体の輸送は、機体のサイズが比較的小さいことから、車の後部座席に置いて運ぶことも可能です。将来的には折り畳み式にすることでアタッシュケースに入れて、電車で移動し、運ぶことも可能になると考えています。技術的な優位性は、離陸から着陸までを完全自律飛行できることであり、オペレーターはパソコン上で、飛行ルートを設定するだけで、運用できることにあります。特に、飛行時の制御能力は高く、安定して飛行することが可能です。また、ミニサーベイヤーは、類似の海外製品が 700 万円から 100



図3 ミニサーベイヤーコンソーシアム設立総会
(2012年10月16日)

0万円程度で高価ですが、低コスト化を目指したことで、半分以下の価格で提供できる見込がつかってきました。

コンソーシアムは、開発メーカーとユーザで構成することで、ユーザ側の要望や要求仕様に即座に対応・反映できるように配慮しました。また、産学官の連携体制で組織することで、千葉大学以外の大学や、研究機関の成果も反映できるように、柔軟な体制となりました。

コンソーシアムは、2012年10月に設立総会を実施し、120名以上の参加者を得て、華やかにスタートすることができました(図3、図4)。現在、コンソーシアムに参加している機関は50を超えており、そのリストを見るとオールジャパ体制で構成されているのがよく分かります。私は、若輩ながら、このコンソーシアムの理事を務めさせて頂くこととなり、重要な責務を仰せつかることとなり



図4 ミニサーベイヤーコンソーシアム設立総会に
行われた飛行デモ(2012年10月16日)

ました。これまで幾つかの学会の事務局や委員等を歴任した経験を活かして、コンソーシアムの組織運営をサポートさせて頂いています。

また、コンソーシアムでは、2種類の部会活動を推奨する体制を整えました。1つ目は、利用や開発を促進させるための専門部会であり、新しいニーズへの技術支援を円滑に進めていくための部会です。専門部会に関しては、放射線計測部会や農薬散布部会、空撮計測部会、機体開発部会、電波法関連部会、安全管理部会が立ち上がっております。

2つ目は、地域での普及・展開を目的とした地域部会であり、地域部会により、きめ細かなサービスの提供や、地域のニーズを吸い上げることが目的に創設しました。地域部会は、現在、新潟地域部会、福島地域部会、宮城地域部会、九州地域部会が立ち上がっております。この2種

類の部会によるエンジン機能で、利用がより促進されていくものと期待しています。(茨城地域部会は、まだありませんので、主体となって活動して頂ける企業があればお願いしたく考えています。興味のある方は、伊東までご連絡ください。)

ここまでは、良いことばかり書いてきましたが、一方で多くの課題も山積しています。小型の無人航空機は、模型飛行機の分野で、ホビー用として普及していますが、事業や社会インフラとしては普及していません。この理由は、法規制度が整っていないこと、安全管理に関する基準が定まっていないことが挙げられます。そこで、関連法案の整理や確認を行うとともに、安全管理基準の検討も始めたとところです。自動車は既に、道路交通法、保険制度、車検・点検制度、免許制度が整っていますが、ミニサーベイヤーも同様に整備していくことが求められると考えています。一つの事業分野やインフラを開発することの大変さを身にもって痛感しているところですが、達成できた時の効果や意義は大きいはずで

す。ミニサーベイヤーに期待されている利用用途は、災害時の情報収集、放射線の効率的な計測、写真や動画の撮影等です。私の方では、農業分野での情報収集や橋梁等の構造物点検等が期待できると考えており、検討を行っているところです。

ミニサーベイヤーの利用分野の開拓は、このようにまだ始まったばかりです。ミニサーベイヤーはあくまでも機体のみです。機体にセンサ・装置を搭載し、

具体的なアプリケーションが成立して初めて役に立ちます。機体製造に係る技術を持つているエンジニア、センサ・装置の開発者、ミニサーベイヤーを利用して新しい利用用途を開発したり、事業を立ち上げたい方など、様々な分野の方に参画して頂きたいと考えています。アイデアや技術を持つている方は、是非ともこのコンソーシアムに参画して下さい。コンソーシアムでは、コンソーシアムの会員以外の方も参加可能な飛行デモの見学会や事例報告会等も企画しています。左記のWebページでこれらのイベント情報を紹介しておりますので、興味がある方は是非ともご参加ください。

ミニサーベイヤーコンソーシアムWebページ
<http://mini-surveyor.com/>

コンソーシアムの立ち上げやその後の活動に関しては、高校や大学の多くの同窓生に協力して頂きました。同窓生の縁が、新しい技術分野の成長の一助になっています。この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

土浦一高の同窓生の先輩、同期、後輩は、それぞれの分野で活躍しており、東進会の総会・懇親会、各種イベントを通じて交流させて頂くことで多くの刺激を頂いています。同窓生の縁が私の人生の財産にもなっています。昨年度は、東進会の総会・懇親会の当番幹事を担当させて頂き、同期生と繋がる機会もつくることができました。今後もこの縁を大事にしていきたいと考えています。

同窓会考

柏瀬 孝子 (昭和 57 年卒)

はじめに

土浦一高を卒業してから、一年間東京の予備校に通い、東京の大学の建築学科に入った。大学四年間はクラブ活動に時間を取られ、かつ、土浦から通学していたこともあって、ビリから数えた方が早いぐらいの成績で卒業した。その後は、建設会社に入社して、早二十六年が経つ。ともあれ、建築学科から建設会社に入って今に至る、という平凡な人生を送っていると思つている。

社会人になると、高校の名前を言われることはほとんどない。出身を問われる場合は大学名を聞かれる。特に理系学部出身の人間は、大学、学部、学科、研究室が自らの専門性を示す名刺のようなものだからだ。私もそんな一人で、数年前まで高校のことを思い出すことはあまりなかった。

私の場合は、その他の事情もあった。大学入試に二度も失敗した私は高校の友人と会うのを自然と避けるようになっていた。というより、そのために、異常に忙しい生活を強いられる状況に自分をおいてしまったように思う。大学四年間は土浦から東京まで通っていた。建築学科の勉強とクラブ活動の両立は壮絶を極め、課題の提出後は、製図室で倒れたこともあった。平日も休日も帰宅はいつも深夜だったので、高校の友人と連絡を取り合う暇などとして

もなかった。私の大学時代は、携帯電話どころか、PCメールさえなかったから、連絡手段は、家の置き電話か、手紙だけ。同級生と疎遠になるのも無理はない。疎遠になれば、思い出さない。

また、就職後もとても忙しかった。いわゆるバブル期入社した私は、新入社員の頃から仕事に追われた。覚えることばかりの仕事、そして、その合間を縫っての一級建築士の受験勉強。その上、就職を期に一人暮らしを始めたので、慣れない家事に時間を取られ、余裕はまったくなかった。高校のことどころか、卒業したばかりの大学のことでさえ思い出すことはなかった。

人は皆、小学校、中学、高校、大学、職場という順に、それぞれの所属団体を変えて、成長していくものだ。現在の所属団体の一つ前の所属団体のことは、人からも言われ、自分も意識しているけど、二つ以上前の団体は、そんなに強くは意識しない。特に私は、社会人になってから、一つ前の所属団体である大学のことでさえ、専門性を示す名刺と自覚しながら、同窓会的な行事には無関心だったので、高校のことはなおさら、意識の中にすらなかった。

大学の同窓会的集まり

そんな私も、四〇歳を手前に大学の同級生にはよく会うようになった。その年頃になると、みんな学生時代が懐かしくなつて、集まりだすようだ。きっかけは、私の所属していたクラブの部長先生(高校でいうと顧問の先生のようなもの?)が退任されるので、近い学年で慰労会をしようというものだった。

その頃私は博士論文を書いていて、なかなか進捗しないのに苦しんでいた。ここで

博士号取得について簡単に説明しておく。博士号取得のためには、大学卒業後、大学院の修士課程を経て、その後、博士課程に進学し、博士号を取得するのが一般的である。ただ、卒業論文と修士論文は審査されれば、大抵合格となるが、博士論文の場合には難しい。まず、審査してもらうまでに一定の条件を満たす必要がある。これは大学によつて異なるが、私の母校では、査読付の論文を複数書いていることが条件だったように記憶する。また、審査そのものも厳しく、合格しない場合もある。こうした場合は大学院の博士課程に年数分所属し、必要単位を取得していたとしても博士号を取得できず、「博士課程満期退学」と学歴には記すこととなる。最近では社会人が仕事をしながら大学院に所属することも多く、それも取得法としてはこの方法である。博士号取得には、もう一つの方法があつて、論文博士という方法である。これは論文を大学に提出し、それを審査してもらうというシンプルなもの。審査してもらうまでの一定の条件と審査が厳しいのは同じだが、大学院に所属する必要はなく、従つて、学費が要らないという利点がある。

私は、後者の方、すなわち、論文博士の方法を選択した。というより、それしか道はなかった。学部卒の私が、社会人大学院に行つて取得するのは、時間がかかりすぎるし、仕事との関係でそんな環境になかったからだ。指導してくれる先生も恩師の手配で決まり、論文を書いて持っていけばいいだけになっていたのだが、そこからが長かった。ちなみに、博士論文を書くというのは、一から書くわけではない。それまでにかいた論文をまとめる行為になるのが普通だ。まとめるだけだから、ワープロの編集で終わるんじゃないの、と思う方も多

いだろう。私もそう思っていた。だが、これが難しい。これまで書き溜めた論文の成果を、ひとつのストーリーで論理づけて書くのは、本当に大変だった。もちろんもう仕事をしていたわけだから、いつまでに取らなくてはならないということもない。先生にも同僚にも「いつでもいいんだから」と言われた。しかし、それを言われれば言われるほど焦り、進まないことに苛立ち、気持ちは沈んでいった。そして、現実から逃避するために、買物を繰り返して、店員さんにかまってもらふことで精神の安定を得ていた。

後で人に聞いた話だが、博士論文を書いているときは、誰もが精神的に追い詰められ、何らかの症状がでるのだという。一般的なのは、過食症、拒食症、円形脱毛症、的な症状らしい。それが私の場合は買物依存症的な症状だった。

部長先生の慰労会の案内が届いたのはそんなころだった。最初は「行かない」と思った。しかし、出欠の期限が迫るにつれ、無性に大学四年間苦楽を共にした同級生の顔が見たくなつた。そんなことやつて暇はない、という気持ちと、同級生の顔がみたい、という気持ちが入り混じつて、悩んでいるうちに、悩む時間が無駄だから行こう、と決心し、久しぶりに大学時代の友人たちに会った。大学時代にそんなに仲がよかったわけではないのに、妙な安心感を得て、満足した気分が帰つたのを覚えていた。それから、その会合は定期的に続き、私もそれだけは行くようになった。ちなみに、私の所属していたクラブは歴史のあるクラブなので、卒業生が千人規模でいて、正式な卒業生の組織もあるが、その他の私的な集まりも数多くあり、混沌としている。この会合は学年が近い中の私的な集まり

である。

その後、論文をまとめることができ、博士号を頂くことができた。そのときの総長の祝辞で「皆さんは大学の宝である。これからは社会に、大学に貢献してほしい。」という言葉が心に染み込んだ。それまで、何かに貢献するということを考えたことがなかったからだと思う。

大きな石は一度転がりだすと、加速度がつく。博士号取得のお祝いと言われて、同じ大学出身の職場の先輩に食事に誘われた。高いフランス料理を全部食べてしまった後に、「環境系研究室の同窓会の幹事を交代してくれ」と言われ、引き受けざるを得なくなった。料理を食べてしまったのと、総長の「大学への貢献」という言葉が頭をよぎったからだだった。この同窓会は、建築学科の環境系三研究室の合同の同窓会で、毎年七月に開催されるので「七月会」という。その準備のための世話人会（幹事を世話人という）が四月と五月、そして反省会が九月に開かれる。世話人は各会社ごとに一〜二名選ばれており、この世話人を交代してくれというものだった。卒業生は数千人規模、同窓会の出席者は百〜二百人というものである。

そんなこんなで、大学との距離が急に接近したのであった。それが二〇〇〇年〜二〇〇三年くらいのことだった。

出身高校

クラブ活動の同窓会と、七月会の仕事で、時々大学近くに出没するようになっていた頃、クラブの七〇周年記念事業の準備が始まった。その頃は、たぶん暇そうな顔をしていただろう。実行委員に誘われた。こっちは、クラブの人間関係からして、断

る方が大変だと身をもって知っていたので引き受けた。

初めて委員会に行ったとき、それはまだ、七〇周年の二年前だったので、ブレーストーミング的な打合せだった。「昔は得点したとき『ああ愉快なり』も使ってたな」との発言があった。そこで私が「私の高校も得点したときは『ああ愉快なり』でした。」と言ったところ、実行委員長から「君はどこだ？」と睨まれた。「土浦一高です。」と恐る恐る答えたところ、実行委員長は突然笑顔になり、「ハハハ、そりゃそうだ。お前のところの応援部はうちのOBが作ったんだからな。ハハハ、お前は小松崎の後輩か。おい、小松崎の後輩だぞ、こいつは」ととても楽しそうにおっしゃった。

ここで、大学時代私が所属していたクラブ活動について説明したい。名称は「早稲田大学応援部」である。応援部の中は、リーダー、吹奏楽団、チアリーダーの三パートに別れ、それぞれが対等な立場でそれぞれの役割を果たし、また、協力し合っている。リーダーは、一般の人が応援団と連想する人たちである。吹奏楽団とチアリーダーは説明の必要もないだろう。大学の応援組織は大抵がこの形である。私は、高校時代に吹奏楽部だったので、大学で応援部吹奏楽団に所属していた。

話を元にもどすと、初めて聞いた話だったので、とてもびっくりした。応援部に土浦一高出身が多いことは大学生の頃から知っていた。系列校を除くと、福岡県立小倉高校について二番目である。ちなみに実行委員長は小倉高校出身である。東京六大学で名門と言われるには厳然とした基準があり、それは早慶いずれかから、名誉職である主将か旗手をだしていること、というのも大学生時代に聞いたことがあり、土

浦一高は早慶両校から、主将も旗手も出している。名門中の名門と言われたことも確かにあったように記憶する。

しかし、早稲田は「応援部」で慶応は「応援指導部」と言い、土浦一高は「応援指導部」と言う。その上、まだ、私が小学生か中学生の頃、土浦一高は慶応の応援用具である三角帽子を使っていた。これは慶応からもらってきて使用しているという慶応応援指導部の方のインタビュー記事が、新聞の茨城版に載っていたことを鮮明に覚えている。だから私は、土浦一高応援指導部は慶応系だと思っていた。

それなのに、卒業して二〇年以上も経ってから、そんなことを聞かされて動揺してしまった。それを話すと、「なんだ知らなかったのか。俺は土浦に行ったこともあるよ。」と言われてしまった。

それ以来、私の名前は「小松崎の後輩」となった。私を名字で呼んでくれるのは私の同期くらいになった。そして、何かにつけて、先輩方の武勇伝をお聞きすることになった。早稲田大学応援部の卒業生で土浦一高出身は、私の上に5人いる。それぞれに個性の強い方だったらしく、武勇伝がいなくともある。何でいままで誰も話してくれなかつたんだろうと思ひ、現役のところから付き合いのある先輩にそれを言うと、「言ったことなかつたつけ？」といわれる始末。聞く耳を持たないと聞こえないというこころしい。これが二〇〇八年の夏頃だった。高校の方も転がりだすと、加速度がついてしまった。二〇一〇年のお正月に、土浦二中（私の出身中学）と土浦一高の先輩から、東進会の幹事をするから手伝ってほしいという年賀状がきた。東進会って行ったことがないどころか、聞いたこともなかったけど、いつもの癖で、断る方が面倒と思

い引き受けた。そんなのがあったら早く教えてほしかった、と思ったが、やはりこれも、聞く耳を持たなかつたせいだろう。

東進会当日、一高応援指導部のステージを見て、間違いなく早稲田のOBが作ったものと確信した。まず、司会が「私どもは早稲田大学応援部の流れをくむ・・・。」と紹介していたし、リーダーのテク（振り）が早稲田そっくりだったし、何より、部員バッチが色違いでそっくりだった。高校のときに吹奏楽部だった私は、野球の応援の時に応援指導部と一緒にしていたはずなのに、大学に入ってから気がつかなかったのは、とても不思議だったが、人は意識していないと、何も気づきはしないということだろう。

高校の方はもう一回りする。翌年、高校二年生の時の担任の先生が、土浦一高の校長先生になったのを機会に、同窓会をすることになった。仲のいい友人は今でも時々会ってたりするけど、ほとんどは卒業以来初めて会う同級生たちだった。それぞれに近況を報告しあうと、転職しつつキャリアを磨いている友あり、結婚して子育てをしながら起業している友あり、中には、倒産した有名企業にいて、倒産から新しい会社作りまでを楽しんだという逞しい友もいた。同級生の近況を聞きながら、「建築学科を出て建設会社に就職し今に至る」としか言えない自分が悲しかった。同時に自分の人生も違う選択肢があつたのか、あつたのだとしたら、なぜそれに気づかなかつたのか、損をしてしまったのではないか、という気持ちにまでなつてしまった。この同級生たちと、もつと若い頃から交流していれば、違う選択肢も見えてきたのか、と。

おわりに

人生を半分過ぎて思うことは、高校や大学の先輩後輩の繋がりの不思議さだ。決して自分から積極的に選んだわけではない人間関係なのに、一生続く。しかも会ったこともない先輩後輩に影響されたりもする。例えば、私の知らない先輩のことを知っている人が、その先輩との人間関係を理由に私に親しみを持ってくれる。

大学時代を思いだすと、「あなただけいつも特別」と応援部の同級生に言われたことがあった。そんなことないのに、と思っていた。しかし今思うと、土浦一高の個人的な先輩たちを私の後ろに見ていた当時の監督やコーチは、私に対して、他の同級生に比べて、少しだけ親しみを覚えてくれていたのかもしれない。そう考えると、会った事がない先輩や後輩も大事に思わずにはいられない。少なくともこれから一高や早稲田の後輩が、大学や職場で私の後輩と呼ばれて、いじめられることのないように生きていかなければいけないのかな、と思ったりする。

ちなみに、高校二年の同窓会で落ち込んだ私を元気にさせてくれたのも、早稲田出身の職場の先輩の一言だった。「温室の花は温室の中できれいに咲けばいいんじゃないの。」ありがとうございます。きれいに咲くのは無理ですが、地味でも薬になるドクダミの花を目指したいと思います。

小松崎さんへ
お目にかかったこともないのに、お名前を出してしまいました失礼しました。紙上を借りてお詫びします。早慶戦にはよく行っています。お声をかけてください。

私大合格者減少続く
平成 25 年度 大学合格状況

例年週刊誌で話題になる東大合格者は、昨年より2名多い24名だった。公立高校では、浦和(44)、都立西・岡崎(32)、旭丘(29)、日比谷(26)に次いで6番目だったが、新卒では日比谷より2名多い13名だった。また、現役出願者は他の上位校に比べて少ない51名で、その合格率は、上位校の中では3番目で、併願者が更に減ったとも考えられるが、経済的不況も影響していると思われる。

ある。昨年11名減少した筑波大は元の数字に戻っている。一橋大は1名にとどまった。私大合格者は、昨年的大幅減少に引き続いて減少傾向を示している。一昨年末まで多かった併願者が更に減ったとも考えられるが、経済的不況も影響していると思われる。

ある。世界で活躍するようになって貰いたいものである。

進修同窓会が引率の先生の経費を補助して始まった海外研修も4年目を迎えた平成24年度は、同窓会に代わって県が補助してくれることになったが、相変わらず好評で、大受験ばかりでなく、海外留学や卒業生が世界で活躍するようになって貰いたいものである。

(東進会会長 大野 金一)

入試年度	平成 25 年		平成 24 年		平成 23 年		平成 22 年		平成 21 年	
	合計	新卒	合計	新卒	合計	新卒	合計	新卒	合計	新卒
大学										
北海道大	4	3	9	5	7	2	6	1	3	1
東北大	19	9	20	15	19	10	15	10	27	20
茨城大	13	5	7	6	12	10	12	8	7	7
筑波大	42	25	33	23	44	30	42	35	38	30
千葉大	10	4	12	8	10	5	9	5	12	8
お茶女大	7	4	2	2	5	3	5	4	8	6
東京大	24	13	22	13	29	17	24	14	16	10
東京外大	4	2	3	2	4	1	5	4	1	1
東工大	4	3	8	6	9	3	5	4	13	5
一橋大	1	0	7	2	10	3	11	6	11	3
横浜国大	4	2	5	2	1	0	6	1	4	3
京都大	2	1	6	0	3	2	4	3	5	3
大阪大	2	1	6	3	3	2	2	0	0	0
名古屋大	4	2	3	2	4	1	2	0	1	1
九州大	0	0	3	1	1	1	1	1	1	1
その他	41	13	20	17	35	16	24	5	23	9
国立大計	181	86	167	107	196	106	173	101	170	108
公立大計	6	1	10	8	7	5	12	7	6	3
国公立計	187	87	177	115	203	111	185	108	176	111
国公医学	17	5	14	7	20	11	9	1	16	4
防衛医科	0	0	2	0	1	0			1	
その他	0	0	3	2	3	3	3	2	2	1
大学校計	0	0	5	2	4	3	3	2	3	1
入試年度	平成 25 年		平成 24 年		平成 23 年		平成 22 年		平成 21 年	
	合計	新卒	合計	新卒	合計	新卒	合計	新卒	合計	新卒
大学										
青山学大	15	9	20	10	20	9	24	15	8	7
学習院大	13	9	18	8	13	6	12	7	9	4
慶応大	43	20	52	21	56	29	52	23	58	27
国際基督	5	3	7	3	5	2	8	8	7	5
上智大	17	6	23	8	22	11	22	10	21	14
中央大	22	4	27	10	42	17	45	14	57	18
津田塾大	1	0	2	2	5	2	6	3	8	8
東京女大	6	4	8	4	4	2	12	5	2	2
東京理大	53	23	74	30	87	36	89	45	107	45
日本女大	19	14	20	11	9	9	15	10	17	10
法政大	33	16	28	12	40	24	33	17	26	14
明治大	70	26	70	30	92	48	79	38	89	41
立教大	28	13	64	41	41	14	54	31	58	32
早稲田大	72	27	71	20	103	44	105	50	109	59
その他	143	53	162	64	186	72	138	73	138	61
私立大計	540	227	644	274	725	325	694	349	714	347
総計	720	308	837	391	932	439	882	459	893	459

初期化

半了のささやき ⑮

高山寺 半了 (昭和 41 年卒)

安倍内閣支持率は 76% となり、民主党政権を上回り小泉内閣以来の高い水準。黒田新日銀総裁の異次元の金融緩和も評価するが 58% (4 月 22 日付け日経新聞)。円安も 100 円に、株価も一万四千元台に迫る。アベノミクスはそれ行けどンドンですが、皆さんには恩恵がありホクホク顔でしょうか？それとも 65 歳以上が 1/3 を超えた日本の主要構成員として、介護保険の高さに驚き、年金生活者としてインフレ目標 2% や、富士山噴火・東南海トラフ地震に怯えておられるのでしょうか。

ところで今回のお題「初期化」と聞いて、皆さんは何を思いますか？「正気か？とは何て失礼な！」と聞き違えてお怒りの貴女は、そろそろ補聴器適齢期ですね。イニシャルイズの事か？とか、フロッピーや DVD で録画する時の事かと思つた貴方は、デジタルにお詳しい。iPS 細胞を連想した御仁は、これは相当な最新医療通ですね。そうです、今回は昨年 12 月、ノーベル医学生理学賞を受賞した山中伸弥京大教授が初めて作製した画期的な iPS 細胞についてです。

iPS 細胞は、アベノミクスの第三の矢「成長戦略」の目玉でもある「再生医療の実用化を急ぐ」の担い手です。では、何故 iPS 細胞は、生命の常識を変えたと言われるのでしょうか？その答は、iPS 細胞発見の受賞理由に

あります。「成熟した細胞を初期化して万能な状態に戻せることの発見」です。

今から 50 年程前の生物学での常識は「細胞分裂して専門性のある体細胞になってしまう」と、受精卵の状態には戻らない「でした。皆さんも母校の生物で習ったと思います。まだクロンなる言葉も世に広まっていませんでした。そこでもう一人同時受賞した英ケンブリッジ大のジョン・ガードン教授の登場となります。半世紀も前に「成熟した細胞にも、体をつくるのに必要なすべての遺伝子が備わっている」という実験結果を示しました。いまや生物学の教科書に載る常識だそうです。58 年、カエルの後期の胚の核でもクロンがつくれる事を発表。62 年には、オタマジャクシの腸からクロンオタマジャクシをつくりました。更に 96 年には、英国で哺乳類初のクロン羊「ドリー」が生まれた。ドリーは大人から大人が出来た初めての成功例でした。これは当時大々的なニュースになり、「クローン」なる言葉も一気に定着したので、皆さんの記憶にもあると思います。

それでは、何故 50 年も前の細胞研究が今脚光を浴びているのでしょうか。iPS 細胞との関係は何でしょうか？簡単に言うと、山中教授は 06 年、マウスの皮膚細胞にわずか四つの遺伝子を入れるだけで初期化すると発表。これが iPS 細胞です。どんな細胞にもなれるので、患者に移植する再生医療への応用が期待されています。07 年にはいよいよヒト iPS 細胞もできました (平成 24 年 12 月 6 日朝日新聞)。

そこで、今回のささやきは「初心忘るべからず」。ご存知、世阿弥の名言です。老若問わず

皆さまの初心は何時頃、何でしたか？この機会に思い起こして見たら如何でしょうか？

我々の体はもはや初期化は難しいですが、志は初期化できるのではないのでしょうか？初期化すれば大きな可能性が再び生まれますよ。

処で、世阿弥にとっての「初心」とは何だったのでしようか？「始めた頃の気持ちや志」すなわち「初志」ではなく、「芸の未熟さ」、つまり「初心者頃のみつともなさ」だそうです。晩年 60 歳を過ぎた頃に書かれた「花鏡」の中で、「第一に『ぜひ初心忘るべからず』。第二『時々初心忘るべからず』。第三に『老後の初心忘るべからず』の 3 つの初心について語っています。つまり「初心忘るべからず」とは、それまで経験したことが無い事に対して、自分の未熟さを受け入れながら、その新しい事態に挑戦していく心構え、その姿を言っています。その姿を忘れなければ、中年になつても、老年になつても、新しい試練に向かつていける。と言う事です。

半了はどちらの解釈をしても良いと思えます。「幸・不幸は心の持ちよう」とも言えます。今更と思わず、無いものを嘆かず、在るものに感謝して、大きな可能性を信じ夢を持つ以外何もなかった学生時代を思い起こし、「心の初期化」をして、今又夢に挑戦してみませんか。

最後に土浦一高卒の皆様、謹んでポプラ社のシルバー川柳をお贈りします。「ワシ 3 高血圧・血糖 尿酸値」、「老後にと 残した夢も夢のまま」、「お辞儀して 共によろける クラス会」。6 月 9 日は年に一度の東進会総会です。川柳とは無縁で元気な先輩方や、同期・後輩とお会いできるのを楽しみにしています。

進修同窓会の動き

▼現在の課題は、旧本館の補修。国の重要文化財なので、国と県に予算化を陳情しているが、今年度県が調査費を計上してくれた。

▼60・50・40・25・15 周年の卒業生を招待して行われる総会の日程を来年度から 4 月の第 2 日曜日から第 2 土曜日に変更になった。同窓会主催の祝賀会も各年次に任され、前日前夜祭を行っていた年次も、当日総会に参加したあとの祝賀会開催が可能になった。

▼進修同窓会を活性化するために、毎年の卒業生の 40% を占める女性の副会長を！という声にこたえて、東進会の長戸琴副会長が 4 月の総会で本部の副会長に選出された。

(東進会会長 大野 金一)

編集後記

鮎屋で醤油をなぜ「むらさき」というのか、新聞『語源ハンター (読売新聞)』で知った。土浦市虫掛の柴沼醤油の柴沼秀篤氏に聞いた話だそう。語源は、筑波山的美称「紫峰」の「紫」からという。

土浦は江戸時代、野田、銚子と並ぶ関東の三大醤油醸造地だった。土浦の醤油は江戸で、「おひたちもの」と珍重され、それが「おひたち」、「おしたじ」、「おしたし・おひたし」と変化し、さらに醤油をかけて食べる茹でた青菜を「おひたし」と呼ぶようになったという。(初)

平成25年度 総会・懇親会のお知らせ

|と き| 平成25年6月9日(日曜日)

11:00 受付開始
12:00 母校吹奏学部による演奏
12:20 応援指導部による演舞
12:40 総 会
13:10 講 演
13:40 懇親会
15:30 閉 会 (予定)

|と ころ| 学士会館 210号室

千代田区神田錦町3-28 03(3292)5936

学士会館へのアクセス

都営地下鉄三田線・新宿線「神保町駅」下車 A9出口1分
東京メトロ半蔵門線「神保町駅」下車 A9出口1分
東京メトロ東西線「竹橋駅」下車 3a出口5分
JR「東京駅」下車 北口からタクシーで10分

|会 費| 東進会年会費 3,000円 【同封の振込用紙をご利用ください】
懇親会費 6,000円

ただし、現役の学生は懇親会費1,000円(年会費は不要です)

|講 演| 平野 国美さん(昭和58年卒)
医療法人 彩黎会 理事長

「看取りの医者」を書いた理由

大竹しのぶ主演の「看取りの医者 バイク母さんの往診日記」が
TBS系列で2011年12月に放映された。

この原作が平野国美さんの著書「看取りの医者」(小学館文庫)。

|楽 話| 高山 了さん(昭和41年卒)

みはたち(三二十歳)の夢

60歳から始めたシルクロード2万キロ自転車横断10年の旅

|当番幹事| 木村 繁夫 (昭和43年卒) 幕内 邦夫 (昭和43年卒)
宮崎 好廣 (昭和43年卒) 中根 千枝 (昭和58年卒)
伊東 明彦 (平成5年卒)